

新約聖書
聖徒伝 205

恵みの内に 安息しよう

ネヘミヤ記12~13章

城壁奉獻 種々の問題

アウトライン

0. イントロダクション

I. 祭司とレビ人のリスト 12:1~26

II. 城壁の奉獻 12:27~47

III. エルサレムの住民登録 13:1~36

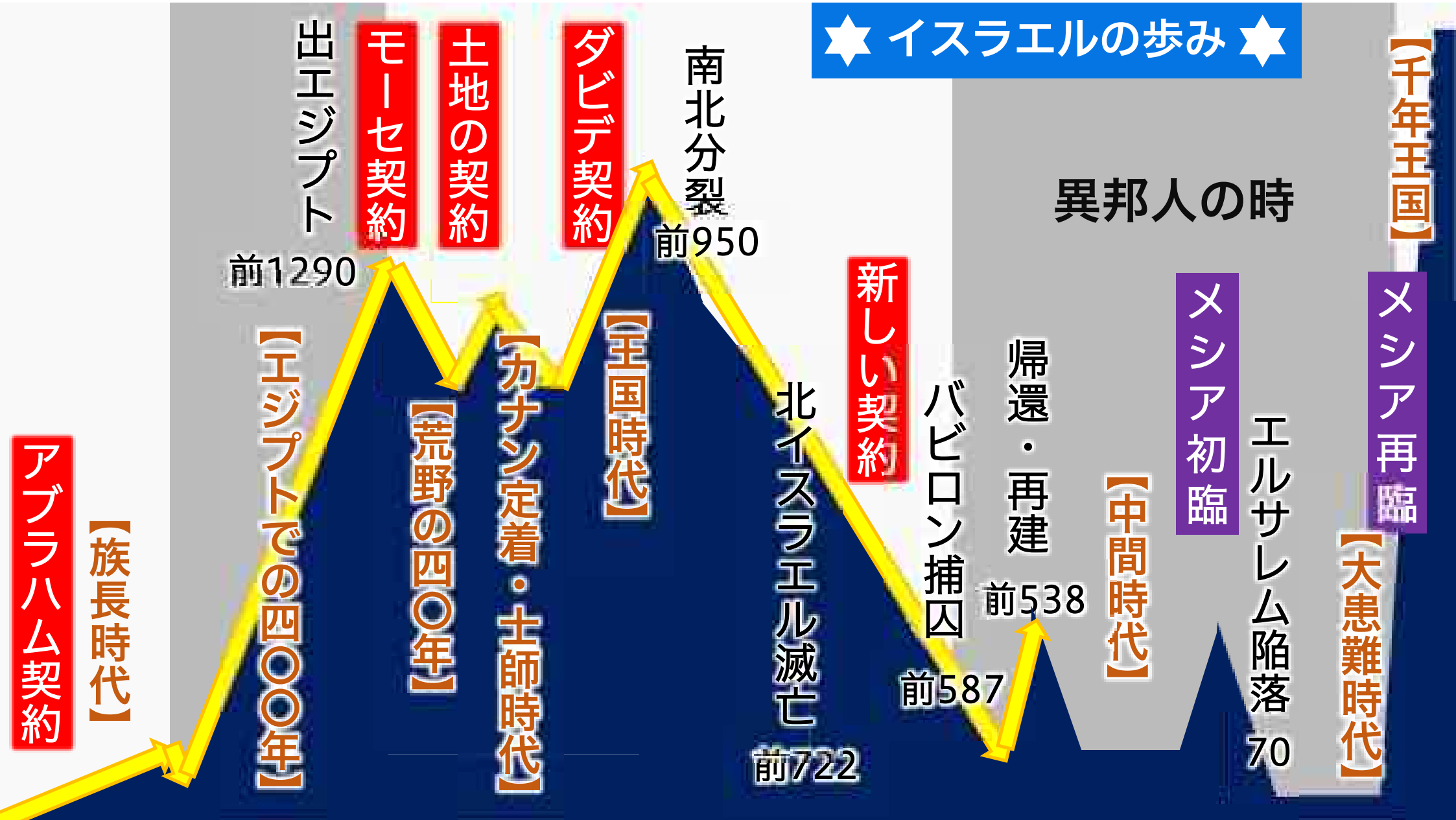
IV. まとめと適用

主イエスの恵みの内に安息しよう

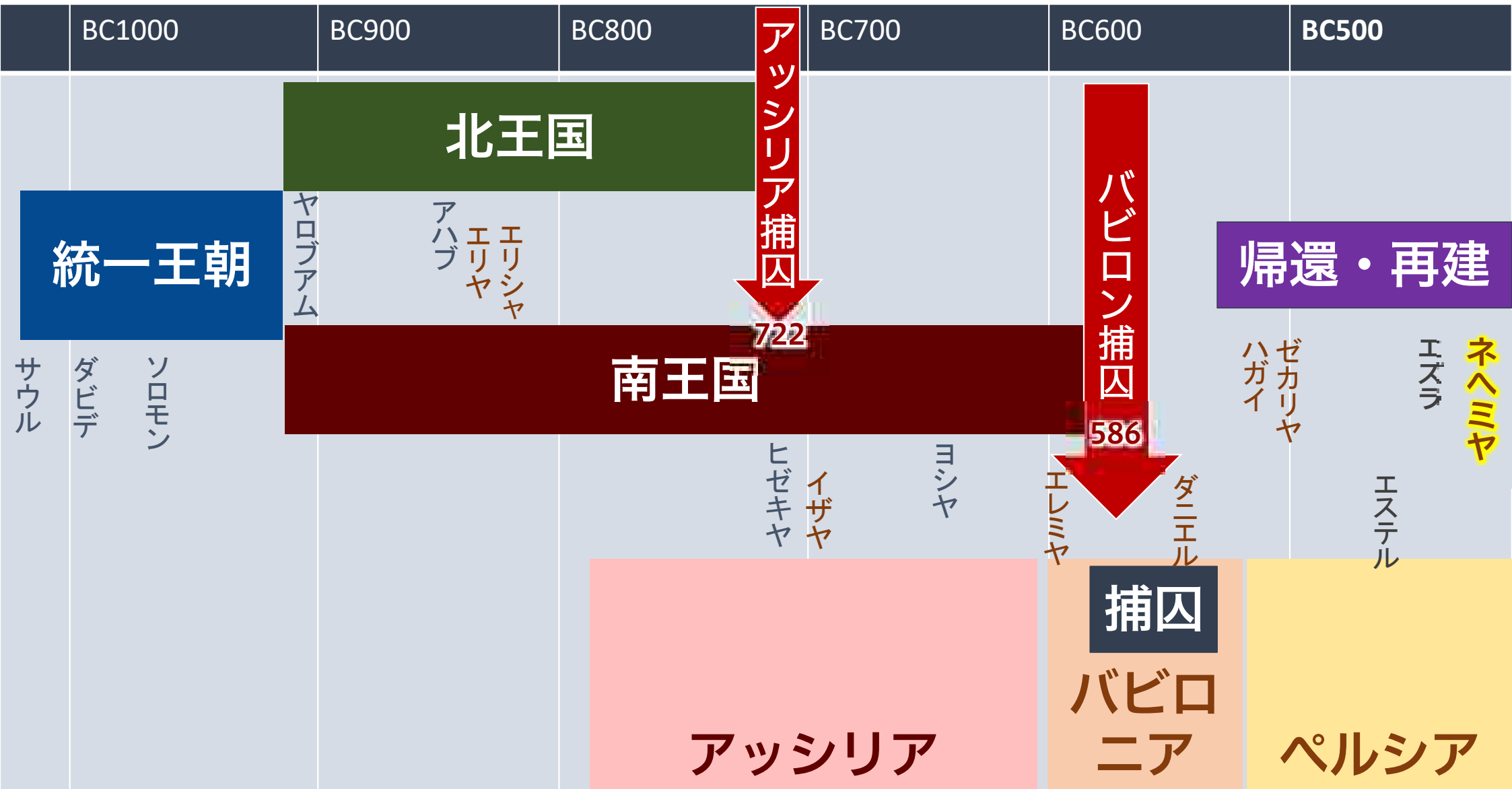


エルサレム旧市街の城壁

★ イスラエルの歩み ★



イスラエル王国史



ネヘミヤ記の構成

1～6章	城壁の再建	1～2章	準備
		3章	民の参加
		4～6章	妨害
7～13章	信仰の再建	7章	民の登録
		8章	律法の朗読
		9～13章	罪の告白と契約の締結



城壁の完成 仮庵の祭り 契約の締結へ

- 城壁完成後、三大祭の一つ・仮庵の祭りを民は盛大に祝った。
- 律法に堅く立ち続けて行くために、主との契約が結ばれた。
- 完成した城壁が、主に奉獻された。

イスラエルは、城壁を奉獻し、主を礼拝した!!



Ⅰ. 祭司とレビ人のリスト

ネヘミヤ記12:1～26

ダビデが定めた奉仕者の組織化

- 祭司を**24組**に分け、輪番で神殿の奉仕を行うようにした。
- レビ人による、**聖歌隊・奏楽隊**を組織した。新たな楽器も考案。
→ 「豎琴と琴とシンバルに合わせて預言する者（1歴25:1）」
- レビ人による、**神殿の警備隊**を組織した。

イエスの時代まで、基本は変わらず継承

祭司とレビ人

24組の祭司 ネヘミヤ記12:1~7

シェアルティエルの子ゼルバベルおよびヨシュアと一緒に上って来た、祭司とレビ人は次のとおりである。

セラヤ、エレミヤ、エズラ、アマルヤ、マルク、ハトシュ、シェカンヤ、レフム、メレモテ、イド、ギネトイ、アビヤ、ミヤミン、マアデヤ、ビルガ、シェマヤ、エホヤリブ、エダヤ、サル、アモク、ヒルキヤ、エダヤ。以上はヨシュアの時代に、祭司とその同族のかしらであった者たちである。

■ ダビデの組織した24組の祭司の系譜が帰還後も継承

祭司とレビ人

第一帰還のレビ人 ネヘミヤ記12:8～9

また、レビ人では、ヨシュア、ビヌイ、カデミエル、シェレベヤ、ユダ、マタンヤ*で、感謝の歌を受け持っていたのはマタンヤとその兄弟たちであった。

また、彼らの兄弟のバクブクヤとウンニは、務めのときには彼らの向かい側に立った。

* 第一次帰還者の名を継ぐ子孫

祭司とレビ人

帰還した大祭司 ネヘミヤ記12:10～11

ヨシュアはエホヤキムを生み、エホヤキムはエルヤシブを生み、エルヤシブはエホヤダを生み、エホヤダはヨナタンを生み、ヨナタンはヤドアを生んだ。

■ 帰還後の大祭司の系譜

①ヨシュア → ②エホヤキム → ③エルヤシブ
→ ④エホヤダ → ⑤ヨナタン → ⑥ヤドア



祭司とレビ人

祭司の一族のかしら！ ネヘミヤ記12:12～17

次に、エホヤキムの時代に、祭司で一族のかしらであった者は次のとおりである。

セラヤ族ではメラヤ、エレミヤ族ではハナンヤ、エズラ族ではメシュラム、アマルヤ族ではヨハナン、メリク族ではヨナタン、シェバンヤ族ではヨセフ、ハリム族ではアデナ、メラヨテ族ではヘルカイ、イド族ではゼカリヤ、ギネトン族ではメシュラム、アビヤ族ではジクリ、ミンヤミン族、モアデヤ族ではピルタイ、

祭司とレビ人

祭司の一族のかしら II ネヘミヤ記12:18～21

ビルガ族ではシャムア、シェマヤ族ではヨナタン、
エホヤリブ族ではマテナイ、エダヤ族ではウジ、
サライ族ではカライ、アモク族ではエベル、
ヒルキヤ族ではハシャブ、エダヤ族では ネタンエル。

祭司とレビ人

レビ族のかしら！ ネヘミヤ記12:22～23

エルヤシブ、エホヤダ、ヨハナン、ヤドアの時代にレビ人は一族のかしらとして登録され、また、祭司はペルシア人ダレイオスの治世に登録された。

レビの子孫で一族のかしらたちは、エルヤシブの子ヨハナンの時代まで、年代記に記されていた。

■ 帰還後のレビ人たちの系譜も確かに記録

祭司とレビ人

レビ人のかしら II ネヘミヤ記12:24～26

レビ人のかしらたちは、ハシャブヤ、シェレベヤ、およびカデミエルの子ヨシュアであり、その兄弟たちが彼らの向かい側に立って、組と組が相応じて、神の人ダビデの命令に基づき、賛美をして感謝をささげた。

マタンヤ、バクブクヤ、オバデヤ、メシュラム、タルモン、アクブは門衛で、門の倉を見張っていた。

以上はエホツァダクの子ヨシュアの子エホヤキムの時代と、総督ネヘミヤ、および学者である祭司エズラの時代の人々である。

ダビデが組織した通り、礼拝が献げられ、神殿が警備された



II. 城壁の奉獻

ネヘミヤ記12:27~47

エルサレム旧市街の城壁

行進 レビ人の招集 ネヘミヤ12:27～29

エルサレムの城壁の奉獻式に際して、彼らはあらゆる場所からレビ人を捜し出してエルサレムに連れて来た。シンバルと琴と豎琴に合わせて感謝の歌を歌い、喜びをもって奉獻式を行うためであった。

歌い手たちは、エルサレムの周辺の低地やネトファ人の村々から、またベテ・ギルガルやゲバとアズマウエテの農地から集まって来た。この歌い手たちは、エルサレムの周辺に自分たちの村々を建てていたのである。



行進 きよめ ネヘミヤ12:30~31

祭司とレビ人は自分たちの身をきよめ*、また民と門と城壁をきよめた*。

私はユダの長たちを城壁に上らせ、感謝の歌をささげる二つの大きな賛美隊として配置した。一組は城壁の上を右の方に、糞の門*に向かって進んだ。

*犠牲の血によるきよめ

*都の南端の門

➡二手に分かれた賛美隊が城壁の上を行進



エルサレム旧市街の城壁

行進 東回り隊 ネヘミヤ12:32～35

彼らのうしろに続いて進んだ者は、ホシャヤとユダの長たちの半分、アザルヤ、エズラ、メシュラム、ユダ、ベニヤミン、シェマヤ、エレミヤであった。

祭司のうちのある者もラッパを持って進んだ。まず、ヨナタンの子ゼカリヤ。ヨナタンはシェマヤの子、シェマヤはマタンヤの子、マタンヤはミカヤの子、ミカヤはザクルの子、ザクルはアサフの子である。



行進 東回り隊 ネヘミヤ12:36～37

次に、ゼカリヤの兄弟たちシェマヤ、アザルエル、ミラライ、ギラライ、マアイ、ネタンエル、ユダ、ハナニで、神の人ダビデの楽器を持って続いた。学者エズラが彼らの先頭に立った。

彼らは泉の門のところで、城壁の上り口にあるダビデの町の階段をまっすぐに上り、ダビデの家の上を通過して東の方の水の門に来た。



行進 西回り隊 ネヘミヤ12:38～39

感謝の歌をささげるもう一組の賛美隊は、左の方に進んだ。私はそのうしろに従った。民の半分は城壁の上を進み、炉のやぐらの上を
通って、幅広の城壁のところに進み、

エフライムの門の上を通り、エシャナの門を過ぎ、魚の門と、ハナンエルのやぐらと、ハ・メアのやぐらを過ぎて、羊の門まで進んだ。そして監視の門で立ち止まった。

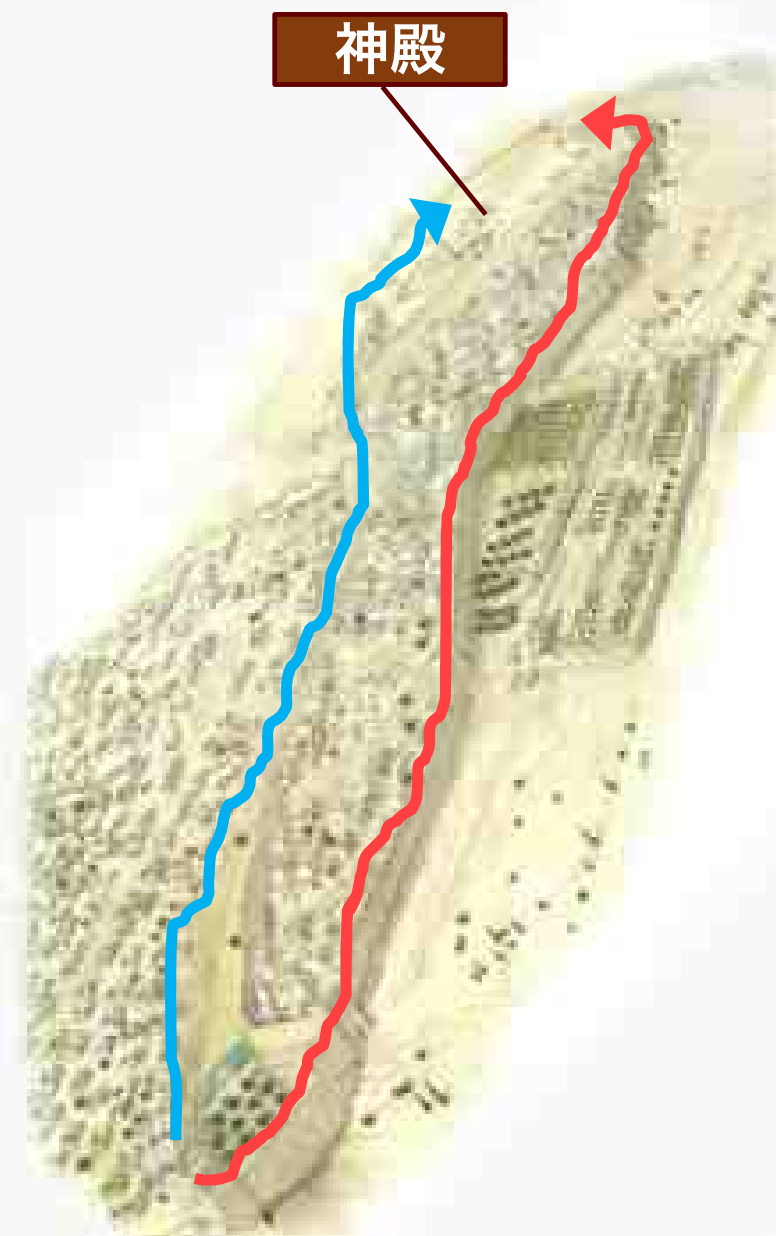


奉献 神の宮で ネヘミヤ12:40

こうして、感謝の歌をささげる二つの賛美隊は神の宮で位置についた。私も、私とともにいた代表者たちの半分もそうした。

また祭司たち、エルヤキム、マアセヤ、ミンヤミン、ミカヤ、エルヨエナイ、ゼカリヤ、ハナンヤもラッパを持って、そこにいた。

また、マアセヤ、シェマヤ、エルアザル、ウジ、ヨハナン、マルキヤ、エラム、エゼルもいた。こうして、歌い手たちは歌い、イズラフヤが指揮をした。



奉献 喜びの声 ネヘミヤ12:43

彼らはその日、数多くのいけにえを献げて喜んだ。神が彼らを大いに喜ばせてくださったからである。女も子どもも喜んだので、エルサレムの喜びの声ははるか遠くまで聞こえた。

その日、財宝や、奉納物、初物や十分の一を納める部屋を管理する人たちが任命され、祭司とレビ人のために律法で定められた分を、町々の農地からそこに集めた。これは、職務に就いている祭司とレビ人をユダの人々が喜んだからである。



奉献 レビ人の務め ネヘミヤ12:45~46

彼らは、自分たちの神への任務ときよめの任務を果たした。歌い手や門衛たちも同様であった。ダビデとその子ソロモンの命令のとおりでである。

昔から、ダビデとアサフ*の時代から、歌い手たちのかしらたちがいて、神への賛美と感謝の歌がささげられた。

*ダビデが指名した奏楽隊の長



細則 聖別 ネヘミヤ12:47

ゼルバベルの時代とネヘミヤの時代、全イスラエルは、歌い手と門衛のために定められた分を日ごとに渡していた*。彼らはまたレビ人の分を聖別し、レビ人はアロンの子らの分を聖別していた。

*レビ人の歌い手、門衛に、十分な日給が!!

■民がささげた十分の一 →レビ人へ

→レビ人の十分の一 →祭司へ





Ⅲ. 種々の問題

ネヘミヤ記13:1～31

エルサレム旧市街

問題① 異教徒の追放 ネヘミヤ13:1

その日、民が聞いているところでモーセの書が朗読され、その中に、アンモン人とモアブ人は決して神の集会に加わってはならない、と書かれているのが見つかった。(申23:3)

それは、かつて彼らが、パンと水をもってイスラエル人を迎えることをせず、かえってバラムを雇ってイスラエル人を呪わせようとしたからであった。私たちの神はその呪いを祝福に変えられた。

民はこの律法を聞くとすぐに、混血の者をみなイスラエルから切り離した。



問題②

トビヤとの癒着 ネヘミヤ13:4

これより以前、祭司エルヤシブは、私たちの神の宮の部屋を任されていて、トビヤ*と親しい関係にあったので、トビヤのために一つの大きな部屋をあてがっていた。以前その部屋は、穀物のささげ物、乳香、器、またレビ人や歌い手や門衛たちのために定められていた、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一、さらに祭司のための奉納物を保管するところであった。

*城壁再建を嘲った敵(4:3)。アンモン人。

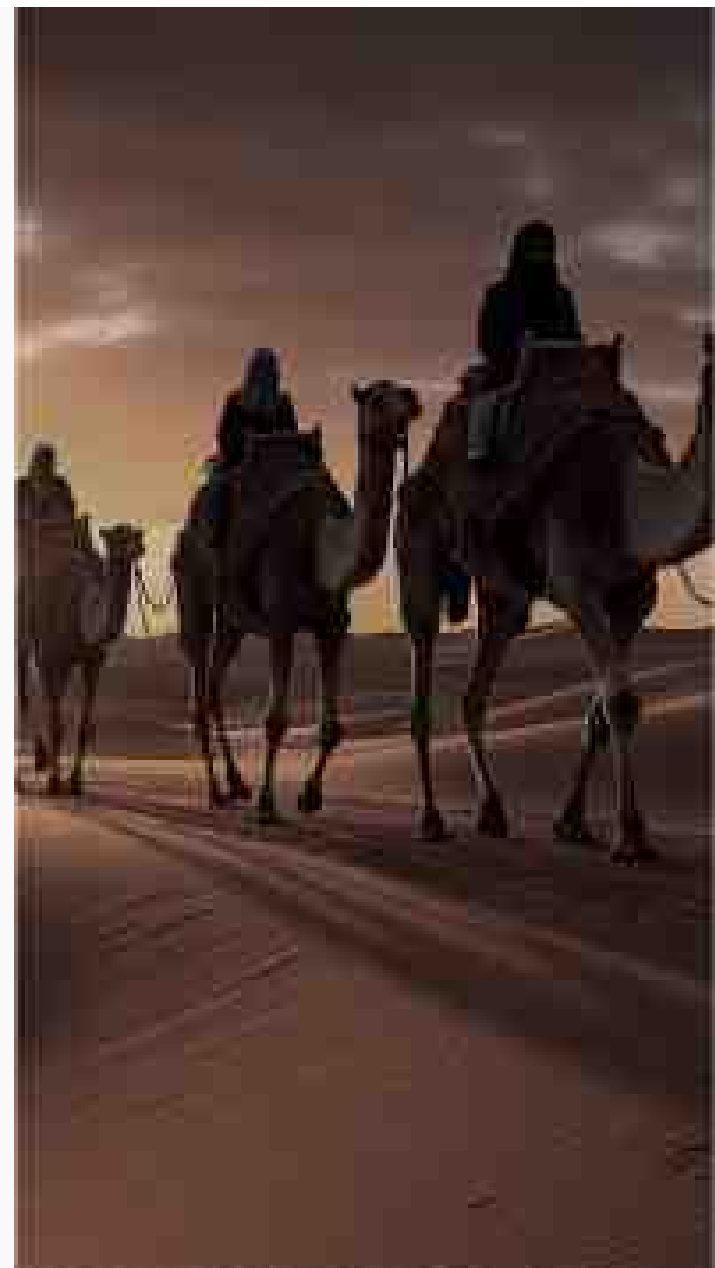


問題② 発覚した癒着 ネヘミヤ13:6~7

この間ずっと、私はエルサレムにいなかった*。
私が、バビロンの王アルタクセルクセスの三十二年に王のところに行き、その後しばらくして王にいとまを乞い、エルサレムに帰って来たからである。そのとき私は、エルヤシブがトビヤのために行った悪、すなわち、神の宮の庭にある一つの部屋を彼にあてがったことに気づいた。

*バビロンに報告に戻り、2年間不在。

➔帰ってきて発覚



問題② 部屋のきよめ ネヘミヤ13:8～9

私は大いに気分を害し、トビヤ家の家財をすべてその部屋から外へ放り出し、命じて、その部屋をきよめさせた。そして私は、神の宮の器を、穀物のささげ物や乳香と一緒に再びそこに納めた。



問題③ 役人との対決 ネヘミヤ13:10~11

また私は、レビ人の分が支給されていなかった*ために、務めに当たるレビ人と歌手たちが、それぞれ自分の農地に逃げ去っていたことを知った。

私は代表者たちを詰問し、「どうして神の宮が見捨てられているのか」と言った。そして私はレビ人たちを集め、元の職務に就かせた。

*指導者たちが不正に着服

民のささげものも激減

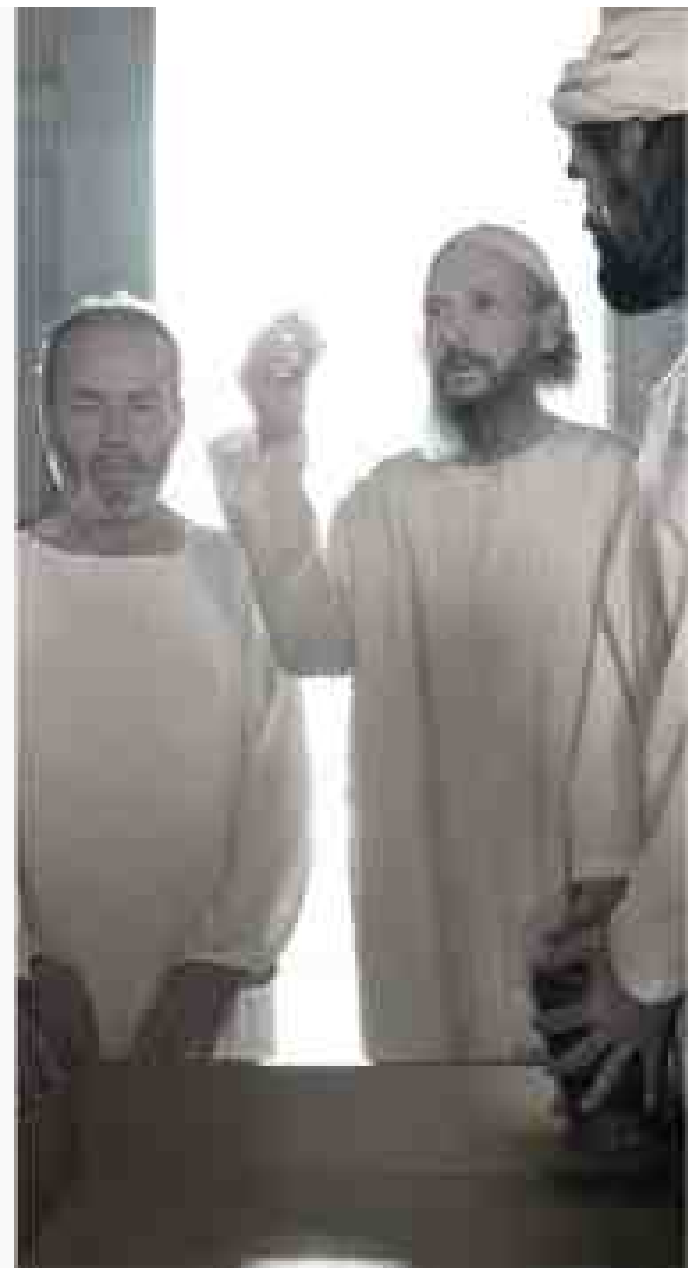
■ 霊的に後退していたエルサレム



問題③ 役人との対決 ネヘミヤ13:12~13

ユダの人々はみな、穀物と新しいぶどう酒と油の十分の一を貯蔵庫に持って来た。

そこで私は、祭司シェレムヤ、学者ツアドク、レビ人の一人ペダヤに貯蔵庫を管理させ、マタンヤの子ザクルの子ハナンを彼らの助手とした。彼らが忠実な者と認められていたからである。彼らの任務は仲間に分配をすることであった。



問題③ ネヘミヤの祈り ネヘミヤ13:14

私の神よ、どうか、このことのゆえに私を覚えていてください。私が神の宮とその務めのためにした数々の誠実な行いを、ぬぐい去らないでください。

■ 神の助けを求めた、切実な祈り。

信仰の回復に帰還民の運命がかかっている

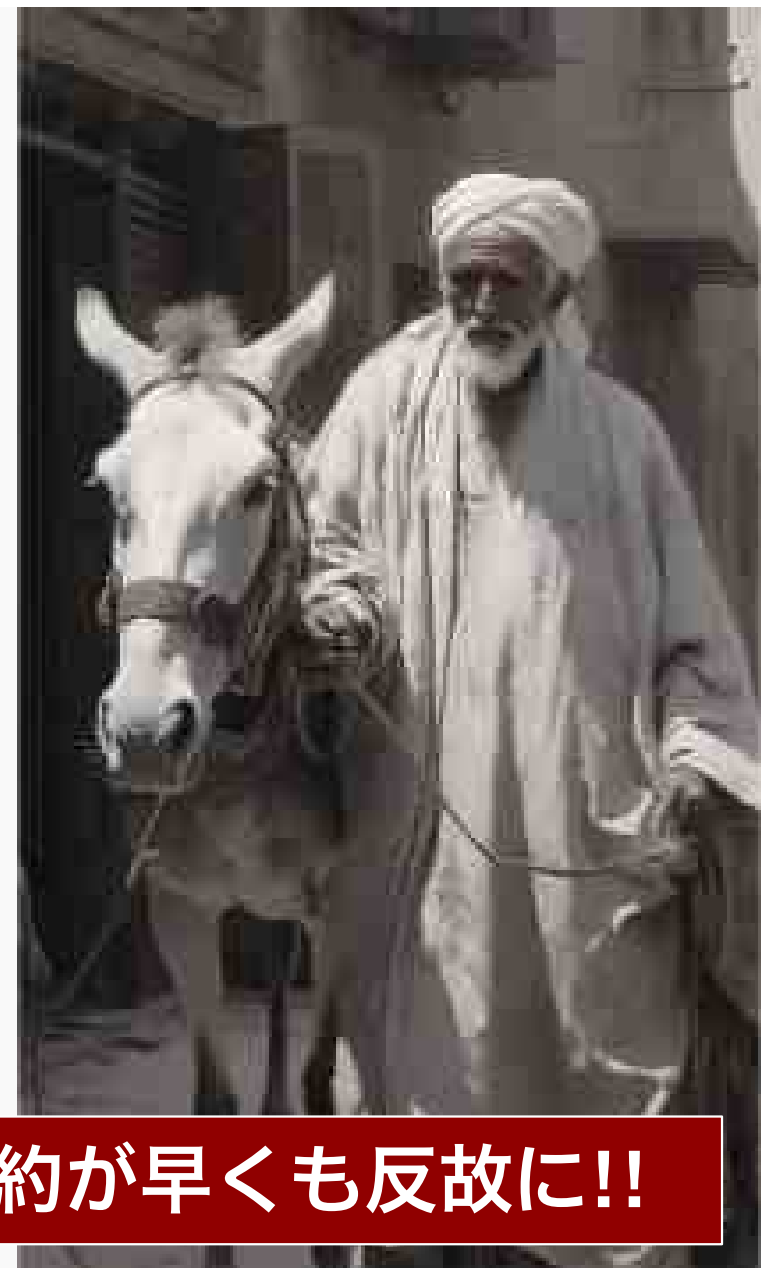


問題④ 安息日違反 ネヘミヤ13:15~16

そのころ私は、ユダのうちで**安息日**にぶどう踏みをしている者、麦束を運んでいる者、また、ろばに荷物を負わせている者、さらに、ぶどう酒、ぶどうの実、いちじくなど、あらゆる品物を積んで、**安息日**にエルサレムに運び込んでいる者を見つけた。それで私は、彼らが食糧を売ったその日に、彼らを戒めた。

また、そこに住んでいた**ツロ***の人々も、魚などあらゆる商品を運んで来て、**安息日**に、しかもエルサレムでユダの人々に売っていた。

*レバノンの異邦人



誓約が早くも反故に!!

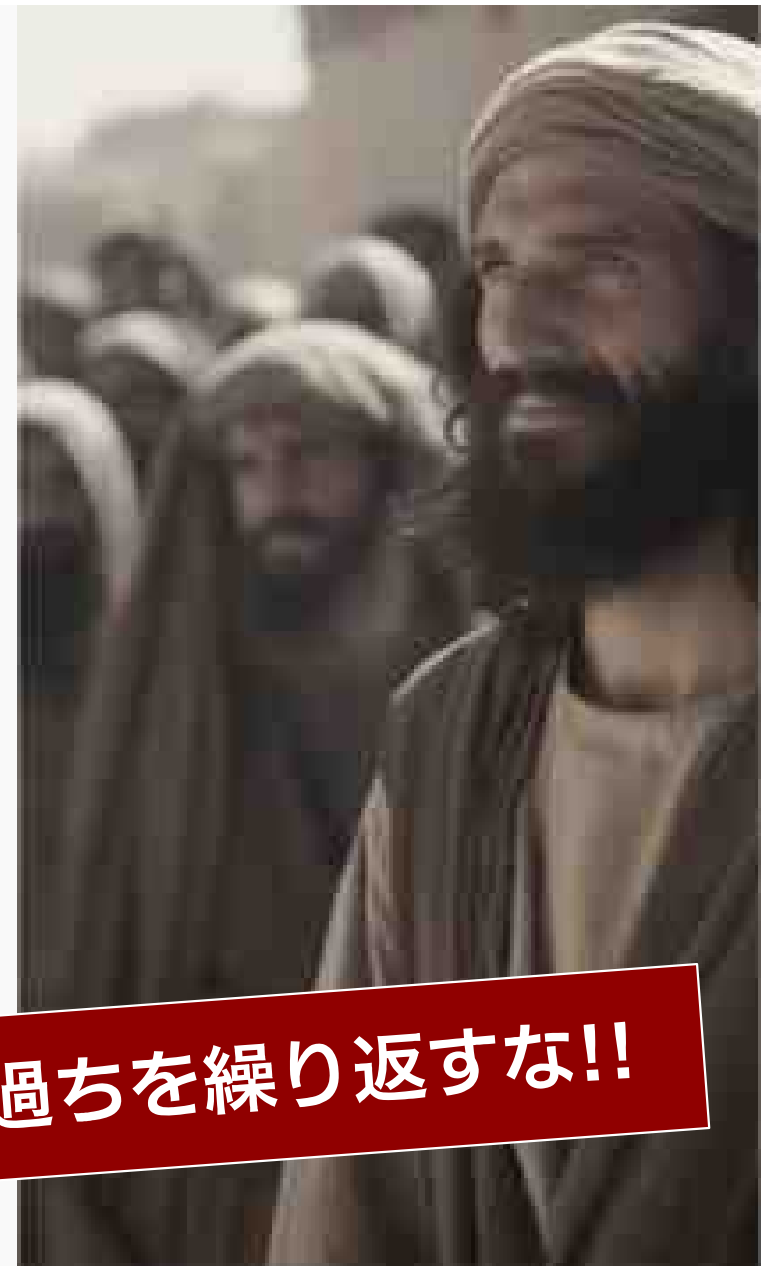
問題④ 安息日違反 ネヘミヤ13:17~18

そこで、私はユダの有力者たちを詰問して言った。「あなたがたが行っているこの悪事は何か。安息日を汚しているではないか。

あなたがたの先祖も、このようなことをしたので、私たちの神はこのすべてのわざわいを、私たちとこの都の上にもたらされたのではないか。それなのに、あなたがたは安息日を汚して、イスラエルの上にもたもや御怒りを招こうとしている。」

■ 安息日は、モーセ契約のしるし

捕囚の過ちを繰り返すな!!



問題④ 安息日違反 ネヘミヤ13:19~20

安息日の前、エルサレムの門に夕闇が迫ると、私は命じて扉を閉めさせ、**安息日**が終わるまでは開いてはならないと命じた。そして、私の配下の若い者の何人かを門の見張りに立て、**安息日**に荷物が持ち込まれないようにした。

それで商人やあらゆる品物を売る者たちは、一、二度エルサレムの外で夜を過ごした。



問題④ 安息日違反 ネヘミヤ13:21

そこで、私は彼らを戒めて言った。「なぜ、あなたがたは城壁の前で夜を過ごすのか。もう一度このようなことをすれば、私はあなたがたを処罰する。」その時から、彼らはもう安息日には来なくなった。

■ 安息日は、主の恵みを覚え、味わうべき日



問題④ 安息日違反 ネヘミヤ13:22

また私はレビ人に、**安息日**を聖なるものとするために、彼らが身をきよめ、**門の見張り**として来るように*命じた。

私の神よ、このことにおいても、**どうか私を覚えていてください**。そして、あなたの豊かな恵みにしたがって私をあわれんでください。

*レビ人の門番の本来の役割



問題⑤ 雑婚の罪 ネヘミヤ13:23~24

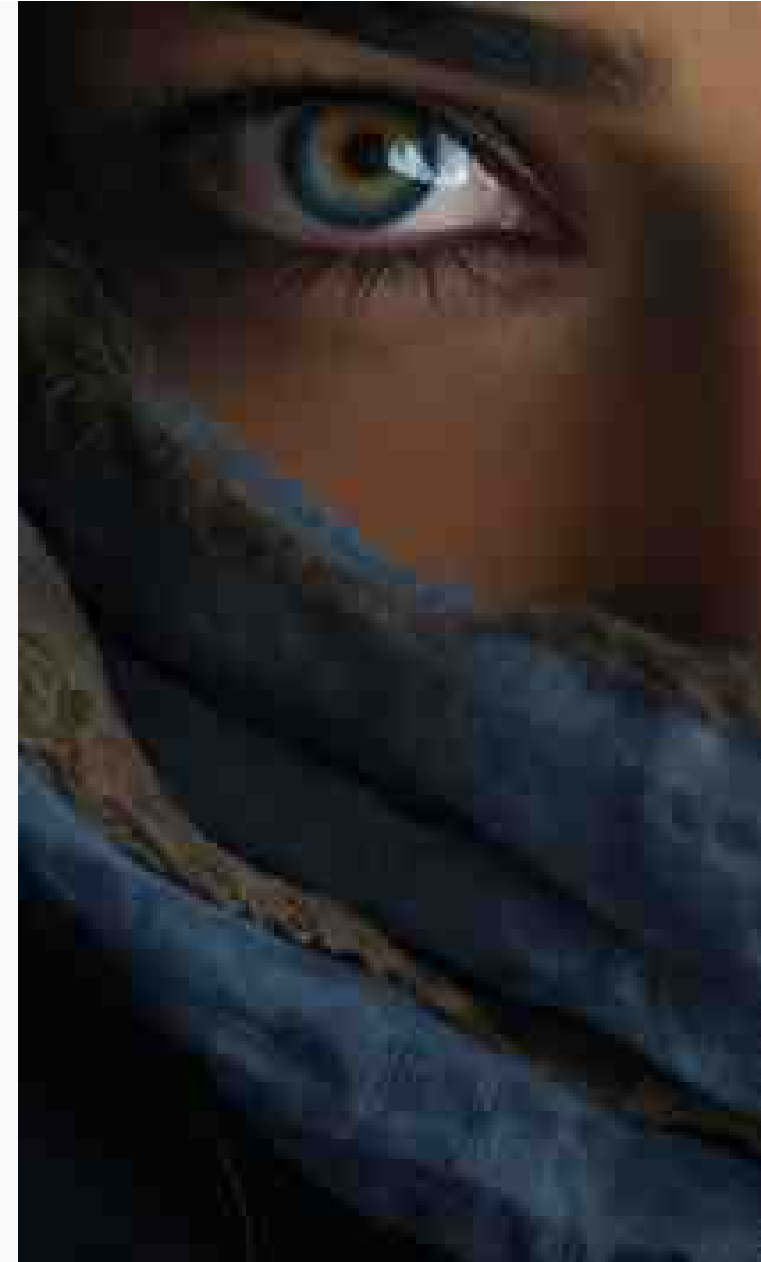
そのころまた私は、アシュドデ人*、アンモン人、モアブ人の女を妻にしているユダヤ人たちに気がついた。

彼らの子どもの半分は、アシュドデのことばか、あるいはそれぞれほかのことばを話して、ユダヤのことばが分からなかった。

*かつてのペリシテに棲みついた住民

■ 雑婚により、神の民としてのイスラエルのアイデンティティが喪失の危機に!!

➔ ユダヤ人にとってのヘブル語の重要さ



問題⑤ 雑婚の罪 ネヘミヤ13:25

そこで私は彼らを詰問してののしり、そのうちの数人を打って毛を引き抜き、神にかけて誓わせて言った。「あなたがたの娘を彼らの息子に嫁がせてはならない。また、彼らの娘をあなたがたの息子、あるいはあなたがた自身の妻としてはならない。」

■ 放置し、罪に呑み込まれれば、捕囚の再現

イスラエルの存亡がかかった大問題



問題⑤ 雑婚の罪 ネヘミヤ13:26

イスラエルの王ソロモンも、このことで罪を犯したではないか。多くの国の中で彼のような王はいなかった。彼は神に愛され、神は彼をイスラエル全土を治める王としたのに、その彼にさえ異国人の女たちが罪を犯させてしまった。

■ 異教徒の妃たちが、偶像礼拝を持ち込んだ。

➔ ソロモンの罪が、王国分裂の元凶

捕囚の過ちを繰り返すな!!



問題⑤ 雑婚の罪 ネヘミヤ13:27~28

あなたがたについても、異国人の女を妻とし、私たちの神の信頼を裏切るといふ、この大きな悪が行われていることを聞かなければならないのか。」

大祭司エルヤシブの子エホヤダの子の一人は、ホロン人サンバラテ*の婿であった。それで、私は彼を私のところから追い出した。

*城壁再建を妨害したサマリアの総督

■ 祭司は同胞の処女と結婚(レビ21:14)



問題⑤ 雑婚の罪 ネヘミヤ13:29

私の神よ、どうか彼らのことを覚えていてください。彼らは祭司職を汚し、祭司職とレビ人たちの契約を汚したのです。

私は異教的なもの的一切から彼らをきよめ、祭司とレビ人のそれぞれの務めにしたがって職務に就かせ、定められた時に行う薪のささげ物と、初物についても規定を定めた。私の神よ、どうか私を覚えて、いつくしんでください。

- 義なる神は、罪を覚えられ、罪人を裁かれる。
- 愛なる神は、悔い改めた者の罪を贖われる。





IV. まとめと適用

主イエスの恵みの内に安息しよう

城壁奉獻とその後

【城壁奉獻】

ダビデが主の前に組織した通り、主への賛美がささげられ、民は、心から喜んで、エルサレムの城壁完成を祝った。

→証しされた、イスラエルの民の**信仰**

【種々の問題】

再建の務めを果たしたネヘミヤが不在の間に、安息日の約束は破られ、祭司が異教徒と雑婚。

→捕囚を招いた**不信仰**に再び陥ってしまった!!

イスラエルの霊的戦いは、継続していく…

神の恵みを覚えて、安息すべき日が、安息日

■出エジプト記20:8～11

安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。

六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。

七日目は、あなたの神、【主】の安息である。

あなたはいかなる仕事もしてはならない。

あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、

家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。

それは【主】が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。

それゆえ、【主】は**安息日**を祝福し、これを聖なるものとした。

今の教会時代の安息とは？

- 安息日は、モーセ契約(律法)のしるし。
 - ➔ 律法の目的は、人々を**メシア**に導くこと
- **メシア**は来られ、律法を完全に守られ、贖いを成し遂げた。
 - ➔ 律法は完遂され、役割を終えた。安息日の義務も解除。
- 安息日の命令は、主の恵みのみ業を覚えて安息すること。
 - ➔ 最大の恵みの御業は、十字架で**メシア**が果たされた。
 - ➔ 福音を信じた者には、**永遠の安息**が与えられている。

クリスチャンにとっての安息とは？

ローマ人への手紙14:5

ある日を別の日よりも大事だと考える人もいれば、どの日も大事だと考える人もいます。それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。

- 安息日は、安息する日。礼拝は、サービス。むしろ、労働。
- クリスチャンにとっては、**日々が礼拝**(=主のための労働) いつ**安息**するかは、それぞれが自分で決めてよいこと。

クリスチャンが集って礼拝する理由

ヘブル人への手紙 10:25

ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

■ イスラエル同様、教会も最初から、**信仰共同体**。

➔ キリストの体の一部として、共に集い、礼拝し続ける。

■ 曜日は特定されないが、**集い、礼拝することは必須**。

例) 日曜日は、復活の日という意味でふさわしい日

神の永遠の安息の喜び

■ヘブル人への手紙4:10～12

神の**安息**に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。

ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この**安息**に入るように努めようではありませんか。

信仰により、恵みによって、私たちは安息に入る

★ 永遠の安息の喜びを生きよう ★

■ 「自分のわざを休む」安息を設けよう。主の恵みを味わうために。

→ 安息は、主への信頼の表明

主は、「まどろむこともなく、眠ることもない(詩121:4)」

■ **安息日の主**である、主イエスに従い、主イエスを礼拝しよう。
クリスチャンにとっては、日々が礼拝 = 主のための労働だ。

■ 日々、絶やさず、主の**いのちの御言葉**を味わおう。
この身が砕かれ、さらに主の恵みが染み渡っていくように。

永遠の安息に導くのは、神のことば

■ヘブル人への手紙4:10～11、 +12節

神の**安息**に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。

ですから、だれも、あの不従順の悪い例に倣って落伍しないように、この**安息**に入るように努めようではありませんか。

神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。

主のいのちのみことばに生き、安息の恵みを味わい尽くそう

てん とう つみ
「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

かみ こ
わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

① わたしの罪を贖うために十字架で死に、

はか ほうむ
② 墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③ 三日目に復活したこと、を信じます。

しんこう めぐ わたし えいえん あんそく もの
信仰と恵みによって、私は永遠の安息にあずかる者とされました。

みことば こころくだ めぐ み し わた
御言葉に心砕かれて、さらなる恵みがこの身に染み渡りますように。

めぐ うち ひび しゅ れいはい よろこ しゅ さんび
恵みの内に、日々、主を礼拝し、喜んで主を賛美します。

やくそく みくに めぐ へいあん み よ つか
約束された御国の恵みと平安で満たし、世に遣わしてください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」